



暑い熱い夏の研修・学会

観測史上最長の連続猛暑日 25 日、熱中症警戒アラート発令、そんなニュースが飛び交う今年の夏、本当に暑かったです。早く秋がこないかなあと待ち遠しい気持ちです。そんな暑い夏でも、様々な研修・学会がありました。6月28・29日には熊本で日精看の全国大会、7月25・26日には仙台で精神科医学会、それぞれ選ばれた研究者の皆さんが発表に行ってきました。熊本と言えば熊本ラーメンとスイカ、仙台と言えば牛タンとずんだ餅が浮かびます。学会発表後の打ち上げ、周辺の観光もいい思い出になったことでしょう。秋に行われる学会への発表に向けて、準備を進めている研究者もいます。今年は日精看愛知県支部の研究発表会はモーニングと七夕で有名な一宮で行われます。日精看の専門学会は、フグで有名な山口県下関です。がんばってまとめた研究の発表の機会、楽しんで行ってほしいと思います。

院内では、例年行っている研修に加えて、外部講師をお迎えした研修も開催しております。身体拘束のピネル社から最新の知識をお伝えいただく演習、山形大学の先生にはハラスメント防止の研修をしていただきました。虐待防止の研修、睡眠と医療安全研修、感染防止対策に関する研修も企画しております。院内の講師が行う研修もよいですが、外の情報に触れる機会も自分たちの常識をアップデートするために、大切なことと思います。外部機関との交流を再開すると、長く苦しかったコロナ禍を少しずつ乗り越えていけるような気持ちです。今年の夏は、第11波の流行もありましたが、夏の暑さにもコロナにも負けず、よりよい医療の提供に向けて、みんなで学んでいきたいと思っています。

びまん性レビー小体病発見の地 記念碑

今年の夏の当院のトピックス、忘れてはいけないことがひとつありました。当院は、名古屋市から認知症疾患医療センターの委託を受けて、認知症治療に力を入れております。認知症にはいろんなタイプがありますが、アルツハイマー型の次に多いレビー小体型認知症は、なんと当院で発見されたのです。それにちなんで、「びまん性レビー小体病発見の地」の記念碑が当院に建てられました。

発見者である名古屋大学の小阪憲司先生が当院でも勤めておられ、1976年に「びまん性レビー小体病」として海外の専門誌に発表されたのが始まりです。しかし、発表した当初はなかなか認められず、約20年後の1995年国際会議でようやく認められたそうです。その後、小阪先生は医師の研究会や家族会を設立され、レビー小体型認知症の早期発見治療に尽力されました。日本は、急速に長寿社会を迎えております。後続く私たちも小阪先生のように認知症の治療看護に尽力し、地域に貢献していけたらいいと思っています。



研修の感想

教育だよりは、看護教育の菊池と小川が主に書いているのですが、始めてから5年目にもなると、だんだんネタ切れと言いますか、何を書こうかなあと悩むこともしばしばありました。せつくなので受講してくださっている方や私たち以外の研修を企画している方にも登場していただこうと思い、お願いしたところ快く引き受けてくださいました。ということで、ニューフェイスの研修を受けている新人看護師の皆さん、ピネル社の研修を企画してくださった行動制限最小化委員会の方にご登場いただきます。

【新人看護師研修の感想】

初めまして、本年度から皆さまと一緒に働かせていただいております、杉江空です。新人看護師研修では、看護師に必要な技術を先輩看護師と一緒に学びました。特に良かった点は、始めに先輩看護師のお手本を見せてもらったので、いきなり実施するよりも、より明確なイメージができました。さらに、学校などと違い、先輩看護師が一对一でついでくださるので、一つ一つのことを確実に身につけられたと思います。(A病棟 杉江空)

入職後、新卒看護師としての実務が初めてで、技術面や知識不足の不安が多くありました。ですが、新人看護師研修で病棟で行うことの多い看護技術の研修を行ってくださり、自分だけの知識の蓄積でなく、教えていただきながら演習を行い、同僚と意見を交わすことでより深く看護技術について学ぶことができました。そのおかげで、患者様に安全で正しく看護を提供することができるようになりました。今後も、基礎の重要な技術を積み重ね、身体的なアセスメントを行いながら、よりよい看護を患者様に提供できるように、日々精進していきたいと思います。(B2病棟 的場一葉)

【ピネル社の研修を企画して】

この研修を企画したきっかけは、ピネルの使用方法について知識や技術が曖昧で、このままでいいのだろうかという思いからでした。この研修のねらいは、『ピネル抑制帯を正しく使用できるスタッフが増えることで、身体拘束に関する重大事故を未然に防ぐことにつなげる』です。今回の研修には、各病棟の主任さんに参加していただきました。もちろん行動制限最小化委員会からも発信はしていきますが、主任さんが得た知識を主任さんから病棟スタッフへどんどん発信して欲しいと思います。スタッフのみなさんは主任さんにどんどん質問してください！



ピネル抑制帯の正しい使用方法を身に付けることも大切ですが、行動制限に関する法律を知ることも大切です。また、常日頃から『患者様をみる力』をつけていくことも大切です。(行動制限最小会委員会 井上ゆき子)

「夏の宵」の思い出

昨年の7月以来久しぶりに言葉シリーズの出番が回ってきました。今年も暑い日が続いていますが夜の東山動物園(ナイトZOO)に行ってきました。太陽が沈むと日中の暑さも少しやわらいで、空は夜になり切っていない茜色と深い青色が混ざった幻想的な色合いがとてもきれいでした。この空や時間帯をなんと表現するのか調べると「夏の宵」と表現するそうです。一日の終わりに向けたこの時間帯は、思い思いに過ごす方が多いのではないのでしょうか。それぞれの「夏の宵」を楽しみながら、夏の思い出を振り返る時間にしてもいいかなと思います。

PS 期間限定のナイトZOOでは、昼間動いているのを見たことがないコアラや白クマなどの動物が活発に動いている姿を見ることができました。夏のいい思い出になりました。

看護教育主任 小川さなえ(精神科医学会認定看護師)